

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月6日

上場会社名 株式会社フジ・メディア・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4676 URL <https://www.fujimediahd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金光 修
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理局長 (氏名) 深水 良輔 (TEL) (03)3570-8000
 四半期報告書提出予定日 2024年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年12月31日)
(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	410,051	6.4	23,601	5.2	28,387	△1.6	19,256	△7.1
2023年3月期第3四半期	385,561	△2.5	22,439	△14.8	28,857	△21.1	20,732	△21.8

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 30,167百万円(△18.9%) 2023年3月期第3四半期 37,180百万円(△4.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年3月期第3四半期	円 銭 87.55	円 銭 —
2023年3月期第3四半期	93.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	1,413,935	859,218	60.0
2023年3月期	1,382,646	848,769	60.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 847,675百万円 2023年3月期 837,680百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	20.00	—	30.00	50.00
2024年3月期	—	24.00	—		
2024年3月期(予想)				24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期期末配当金の内訳 普通配当 20円00銭 記念配当 10円00銭

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	557,700	4.1	32,000	1.9	39,300	0.6	26,000	△44.5	118.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年3月期3Q	234,194,500株	2023年3月期	234,194,500株
2024年3月期3Q	17,071,159株	2023年3月期	11,810,987株
2024年3月期3Q	219,937,631株	2023年3月期3Q	222,393,506株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

政府の月例経済報告によると、当第3四半期連結累計期間の日本経済は「先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」とされており、企業の業績判断は「改善している」とされております。

当社グループにおいても、原材料価格の高騰に伴う物価上昇や巣ごもり需要からリアル消費へのシフトなどの影響もありましたが、社会経済活動の正常化に伴うイベントの再開、旅行・観光需要が大きく回復した他、ホテルやオフィスビルなどの賃貸物件の稼働が好調に推移したことなどが寄与し、業績を改善することができました。

こうした状況の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに増収となり、全体では前年同期比6.4%増収の410,051百万円となりました。

営業利益は、メディア・コンテンツ事業が減益となりましたが、都市開発・観光事業が増益となり、全体では前年同期比5.2%増益の23,601百万円となりました。経常利益は前年同期比1.6%減益の28,387百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比7.1%減益の19,256百万円となりました。

報告セグメントの業績の状況は以下の通りであります。

	売上高			セグメント利益		
	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減 (%)	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減 (%)
メディア・コンテンツ事業	310,796	325,524	4.7	13,219	11,840	△10.4
都市開発・観光事業	70,261	80,962	15.2	9,723	12,663	30.2
その他事業	15,295	15,179	△0.8	777	855	10.1
調整額	△10,791	△11,615	—	△1,280	△1,757	—
合計	385,561	410,051	6.4	22,439	23,601	5.2

(メディア・コンテンツ事業)

㈱フジテレビジョンは、連続ドラマの配信が好調に推移した配信広告収入は増収となりましたが、視聴率の苦戦や原材料価格の高騰に伴う物価上昇の影響により主力の地上波テレビ広告収入が振るわず、放送・メディア事業は減収となりました。コンテンツ・ビジネス事業では、昨年9月に公開した「ミステリと言う勿れ」が大ヒットした映画事業は、「ONE PIECE FILM RED」が大ヒットした前期並みの収入を計上しました。また、シルク・ドゥ・ソレイユの「ダイハツアレグリア-新たなる光-」公演が寄与した催物事業、ワンピースなどの商品化収入が好調に推移したMD事業及びアニメ開発事業、FODプレミアム会員数が伸長したデジタル事業が増収となったことで、コンテンツ・ビジネス事業は大幅増収となりました。以上の結果、㈱フジテレビジョン全体の売上高は前年同期を上回り、費用の効率的な運用に努めましたが、地上波テレビ広告収入の減少が響き営業利益は減益となりました。

㈱ビーエスフジは、放送事業収入、その他事業収入ともに堅調に推移し、増収増益となりました。

㈱ニッポン放送は、放送収入の減収をイベント事業や物品販売事業でカバーし増収となりましたが、原価率上昇が響き、減益となりました。

㈱ポニーキャニオンは、配信、アニメの海外番組販売及び配分金、イベント収入、グッズ売上等が寄与し増収増益となりました。

㈱フジパシフィックミュージックは、著作権使用料収入や原版使用料収入等が好調に推移したことで増収増益となりました。

㈱DINOS CORPORATIONは、ファッション・食品の売上が好調に推移しましたが、リビング系やテレビ媒体を中心とした美容健康カテゴリーが伸び悩み、全体として減収となりました。販売費の効率的な運用や一般管理費の削減に努めましたが、減収による影響をカバーしきれず、営業損失を計上しました。

㈱クオラスは、テレビ等の主力広告媒体の取扱いが増加したほか、イベント関連収入の好調が続き、増収増益となりました。

以上の結果、メディア・コンテンツ事業全体の売上高は前年同期比4.7%増収の325,524百万円となり、セグメント

利益は同10.4%減益の11,840百万円となりました。

(都市開発・観光事業)

(株)サンケイビルは、ホテル、住宅等の賃料収入が好調に推移したことや保有物件の売却が寄与し増収増益となりました。

(株)グランビスタホテル&リゾートは、旅行需要の本格的な回復を受け、札幌グランドホテル、札幌パークホテルをはじめとした運営ホテルの稼働が好調に推移しました。また鴨川シーワールドも引き続き来場が好調で、増収増益となりました。

以上の結果、都市開発・観光事業全体の売上高は、前年同期比15.2%増収の80,962百万円となり、セグメント利益は、同30.2%増益の12,663百万円となりました。

(その他事業)

その他事業全体の売上高は、前年同期比0.8%減収の15,179百万円となり、セグメント利益は同10.1%増益の855百万円となりました。

持分法適用会社では、伊藤忠・フジ・パートナーズ(株)、(株)WOWOW、日本映画放送(株)、(株)TVerなどが持分法による投資利益に貢献しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の総資産は1,413,935百万円で、前期末比31,288百万円(2.3%)の増加となりました。

流動資産は422,228百万円で、前期末比7,431百万円(1.8%)の増加となりました。これは、現金及び預金が6,619百万円、有価証券が2,858百万円それぞれ減少する一方で、棚卸資産が8,427百万円、「その他」に含まれる未収還付法人税等が4,377百万円、前払費用が2,262百万円それぞれ増加したこと等によります。

固定資産は991,706百万円で、前期末比23,857百万円(2.5%)の増加となりました。これは、投資有価証券が15,013百万円、土地が10,321百万円それぞれ増加したこと等によります。

負債は554,716百万円で、前期末比20,839百万円(3.9%)の増加となりました。

流動負債は138,642百万円で、前期末比36,256百万円(20.7%)の減少となりました。これは、短期借入金が11,049百万円、「その他」に含まれる1年内償還社債が10,000百万円、未払法人税等が7,101百万円、未払費用が3,921百万円、未払金が2,626百万円それぞれ減少したこと等によります。

固定負債は416,074百万円で、前期末比57,096百万円(15.9%)の増加となりました。これは、長期借入金が34,516百万円、社債が20,000百万円それぞれ増加したこと等によります。

純資産は859,218百万円で、前期末比10,448百万円(1.2%)の増加となりました。これは、剰余金の配当により利益剰余金が12,089百万円減少し、自己株式の取得により自己株式が7,835百万円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益19,256百万円を計上したこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、メディア・コンテンツ事業が増収減益となる一方、都市開発・観光事業は増収増益となりました。広告市況を取り巻く環境は円安、原材料費の高騰などの影響により引き続き不透明な状況が見込まれるものの、通期の連結業績予想につきましては、2023年5月11日公表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	109,669	103,050
受取手形、売掛金及び契約資産	95,844	96,921
有価証券	100,044	97,186
棚卸資産	72,436	80,863
その他	37,269	44,819
貸倒引当金	△467	△613
流動資産合計	414,797	422,228
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	167,117	161,638
土地	287,002	297,324
その他（純額）	34,214	39,821
有形固定資産合計	488,334	498,783
無形固定資産		
のれん	499	421
その他	17,301	17,442
無形固定資産合計	17,800	17,863
投資その他の資産		
投資有価証券	418,155	433,169
その他	45,036	43,374
貸倒引当金	△1,477	△1,483
投資その他の資産合計	461,714	475,059
固定資産合計	967,849	991,706
資産合計	1,382,646	1,413,935

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,040	36,196
電子記録債務	5,492	8,159
短期借入金	42,702	31,653
役員賞与引当金	402	271
その他	87,261	62,361
流動負債合計	174,898	138,642
固定負債		
社債	—	20,000
長期借入金	220,424	254,940
役員退職慰労引当金	2,438	2,257
退職給付に係る負債	15,874	15,516
その他	120,241	123,360
固定負債合計	358,978	416,074
負債合計	533,877	554,716
純資産の部		
株主資本		
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,797	173,797
利益剰余金	401,585	409,051
自己株式	△14,113	△21,948
株主資本合計	707,469	707,100
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	120,667	126,989
繰延ヘッジ損益	△183	△170
土地再評価差額金	1,533	1,533
為替換算調整勘定	4,170	8,298
退職給付に係る調整累計額	4,023	3,924
その他の包括利益累計額合計	130,210	140,574
非支配株主持分	11,089	11,543
純資産合計	848,769	859,218
負債純資産合計	1,382,646	1,413,935

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	385,561	410,051
売上原価	269,026	293,575
売上総利益	116,534	116,475
販売費及び一般管理費	94,095	92,874
営業利益	22,439	23,601
営業外収益		
受取配当金	3,268	3,611
持分法による投資利益	2,488	958
その他	2,069	2,091
営業外収益合計	7,826	6,661
営業外費用		
支払利息	1,092	1,330
その他	314	545
営業外費用合計	1,407	1,875
経常利益	28,857	28,387
特別利益		
投資有価証券売却益	155	713
その他	42	14
特別利益合計	198	727
特別損失		
固定資産除却損	116	166
減損損失	28	261
その他	276	277
特別損失合計	420	705
税金等調整前四半期純利益	28,635	28,409
法人税、住民税及び事業税	6,423	7,144
法人税等調整額	1,215	1,583
法人税等合計	7,638	8,728
四半期純利益	20,996	19,681
非支配株主に帰属する四半期純利益	264	425
親会社株主に帰属する四半期純利益	20,732	19,256

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	20,996	19,681
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,043	6,153
為替換算調整勘定	6,822	3,846
退職給付に係る調整額	△32	△47
持分法適用会社に対する持分相当額	349	533
その他の包括利益合計	16,184	10,486
四半期包括利益	37,180	30,167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	36,800	29,620
非支配株主に係る四半期包括利益	380	547

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I. 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディア・コ ンテンツ事業	都市開発・ 観光事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	310,526	69,807	380,333	5,228	385,561	—	385,561
セグメント間の 内部売上高又は振替高	269	454	724	10,067	10,791	△10,791	—
計	310,796	70,261	381,057	15,295	396,353	△10,791	385,561
セグメント利益	13,219	9,723	22,942	777	23,719	△1,280	22,439

(注) 1 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△1,280百万円には、セグメント間取引消去2,230百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,510百万円が含まれております。全社費用は、認定放送持株会社としての親会社の費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II. 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディア・コ ンテンツ事業	都市開発・ 観光事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	325,188	80,034	405,223	4,828	410,051	—	410,051
セグメント間の 内部売上高又は振替高	335	928	1,263	10,351	11,615	△11,615	—
計	325,524	80,962	406,486	15,179	421,666	△11,615	410,051
セグメント利益	11,840	12,663	24,504	855	25,359	△1,757	23,601

(注) 1 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△1,757百万円には、セグメント間取引消去1,788百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,546百万円が含まれております。全社費用は、認定放送持株会社としての親会社の費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「都市開発・観光事業」セグメントにおいて261百万円の減損損失を計上しております。これは、㈱サンケイビルにおいて、保有不動産の用途変更に伴って計上したものであります。